

木材価格市況標準相場

令和8年7月2日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

(1) 値上げ品目	9
国産羽柄材	1
南洋材・中国材	1
米材(役物製品)	1
合板	6
(2) 値下げ品目	なし

○今月の市況動向

6月の市況については、大手住宅メーカーでは中東情勢による大きな支障は見られないものの、中小工務店や小規模案件では資材調達の遅れが続いており、依然として厳しい状況が続いている。(国産材)秋田の原木は、この時期としては珍しく市場への入荷量が増加した。一方、国産構造材は3m材を中心に受注が堅調に推移しており、今後は製造コストの上昇分を販売価格へ転嫁する動きが進むものと期待される。吉野材では、新築向けの見積り・受注は低調である一方、店舗やリフォーム向けの需要は堅調である。特に杉材は、居酒屋などの飲食店の内装材として人気が高く、引き合いが増えているとのことである。

(輸入材)SPF材では、北米での製材生産の減少による供給制約が続いており、現地の先物価格は堅調に推移している。米材製品については、入荷・出荷ともに低調な状況が続いているものの、出荷量が入荷量を上回ったことで在庫は減少した。また、第3四半期(3rd Quarter)の契約価格は値上げで決着したが、円安の影響もあり、円貨ベースでは約5,000円/m²のコスト上昇となるため、契約数量は限定的となっている。広葉樹・役物製品についても、コスト上昇分の価格転嫁が進まず、厳しい状況が続いている。

(合板)5月の国内針葉樹合板の在庫量は16.5万m²となり、3か月連続で減少した。一方、6月に入ると仮需的な引き合いは落ち着き、市場は通常の当用買いへと移行している。また、輸入合板の5月通関統計は17.6万m²で前年同月比103.9%となったが、国別ではインドネシアおよびマレーシアからの輸入量は減少しており、今後の供給動向には引き続き注視が必要である。